

全国学力学習状況調査の分析結果

国語

①「全国学力・学習状況調査」の各教科の結果及び県平均

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A 問題	B 問題
本校	78 %	61 %
県	76 %	61 %

②結果から見えてきた「重点課題」

国語 A 5 (一) 6 段落の説明について正しいものを選ぶ問題。

(本校正答率 69.7% 県正答率 76.7%)

- ・段落相互の関係を読み取れていない。

国語 A 6 (一) ①～③ 文脈に即して正しい漢字を書く問題。

(本校正答率 72.4%, 64.5%, 75.0% 県正答率 78.9%, 71.1%, 72.7%)

- ・漢字において無答率が高い (本校無解答率 11.6%, 13.1%, 16.8%)。

③「重点課題」に対する指導方法等の改善内容

- ・説明文，評論文において，「形式段落の意味」，「段落をまたいで使われている用語」について意識して指導する。
- ・古典における説話や，故事成語の成り立ちの学習において，最後に表れる「教訓」の話し手を考えさせる。
- ・日々の漢字学習の積み重ね。「漢字テスト→まちがい直し」の繰り返し。

数学

①「全国学力・学習状況調査」の各教科の結果及び県平均

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A 問題	B 問題
本校	71 %	48 %
県	66 %	46 %

②結果から見えてきた「重点課題」

数学A 4 (2) $\triangle ABC$ を辺ABが辺ACに重なるように折った線を作図するための線を選ぶ
(本校正答率 43.4% 県正答率 53.6%)

- ・昨年度の「基礎・基本」定着状況調査での課題である「垂直二等分線などの作図において、作図方法は理解できていても、その作図の持つ意味や特徴について理解できていない」が、まだまだ改善できていない。

③「重点課題」に対する指導方法等の改善内容

- ・昨年度からの改善内容としての「作図などの操作活動を家庭学習に多く取り入れることで、じっくり時間をかけて取り組めるようにする。課題について、なぜその操作を使うのかについての理由を考えさせる」ことを継続する。
- ・どの作図方法を使うのがよいかを考えさせる課題を設定することで、作図を使うことの利点（簡単に求められる・楽に求められる）を実感させる。

(課題例) 弧から円を完成させなさい

三角形の中にぴったりおさまる円（内接円）を描きなさい など

理科

①「全国学力・学習状況調査」の各教科の結果及び県平均

全国学力・学習状況調査 本年度正答率	
本校	63 %
県	66 %

②結果から見てきた「重点課題」

- 理科
- 3 (2) 太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身に付けている
(本校生徒：50.0% 県平均：65.1%)
 - 7 (1) 地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている
(本校生徒：38.2% 県平均：56.4%)
 - 8 (1) アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている
(本校生徒：71.1% 県平均：83.6%)
- ・『知識』に関する問題に対する正答率は58.0%であり、県平均（67.0%）を大きく下回っている。
 - ・重点課題として、「基礎的・基本的な知識・技能の定着が不足している」ことがあげられる。

③「重点課題」に対する指導方法等の改善内容

- ・授業の冒頭などで科学的用語の意味の確認を行ったり、観察・実験で行う1つ1つの操作の意味を説明したりするなど、理科の基礎的・基本的な知識・技能の定着をはかる授業を展開していく。
- ・定期的に小テストを行うなど、繰り返し反復して行っていくことで、より定着を確実なものとするような取組を行っていく。

生徒質問紙

①「全国学力・学習状況調査」質問紙より本校の課題と思われる項目について

質問項目	結果
自分には、よいところがあると思いますか	肯定的評価 71%
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	3時間以上・・・2.6% 2時間以上3時間より少ない・・・19.7% 1時間以上2時間より少ない・・・32.9% 30分以上、1時間より少ない・・・27.6% 30分より少ない・・・11.8% 全くしない・・・5.3%

②結果から見てきた「重点課題」

- ・自分に対して否定的な生徒が一定数おり、自分の良さが分からず自信をなくしている生徒がいると考えられる。
- ・家庭学習がなかなか取り組めていない状況がある。家庭学習の習慣がない生徒や学習方法が分からないという生徒がいると考えられる。

③「重点課題」に対する指導方法等の改善内容

- ・生徒一人ひとりが肯定的になるために、学校生活の中で特に行事等を活かして、お互いが肯定的に認め合えるような雰囲気づくりを進める。
- ・「さいき家庭学習のススメ」を活用して、保護者とも連携しながら家庭学習の啓発を行う。